

54年度帰国研修員巡回指導

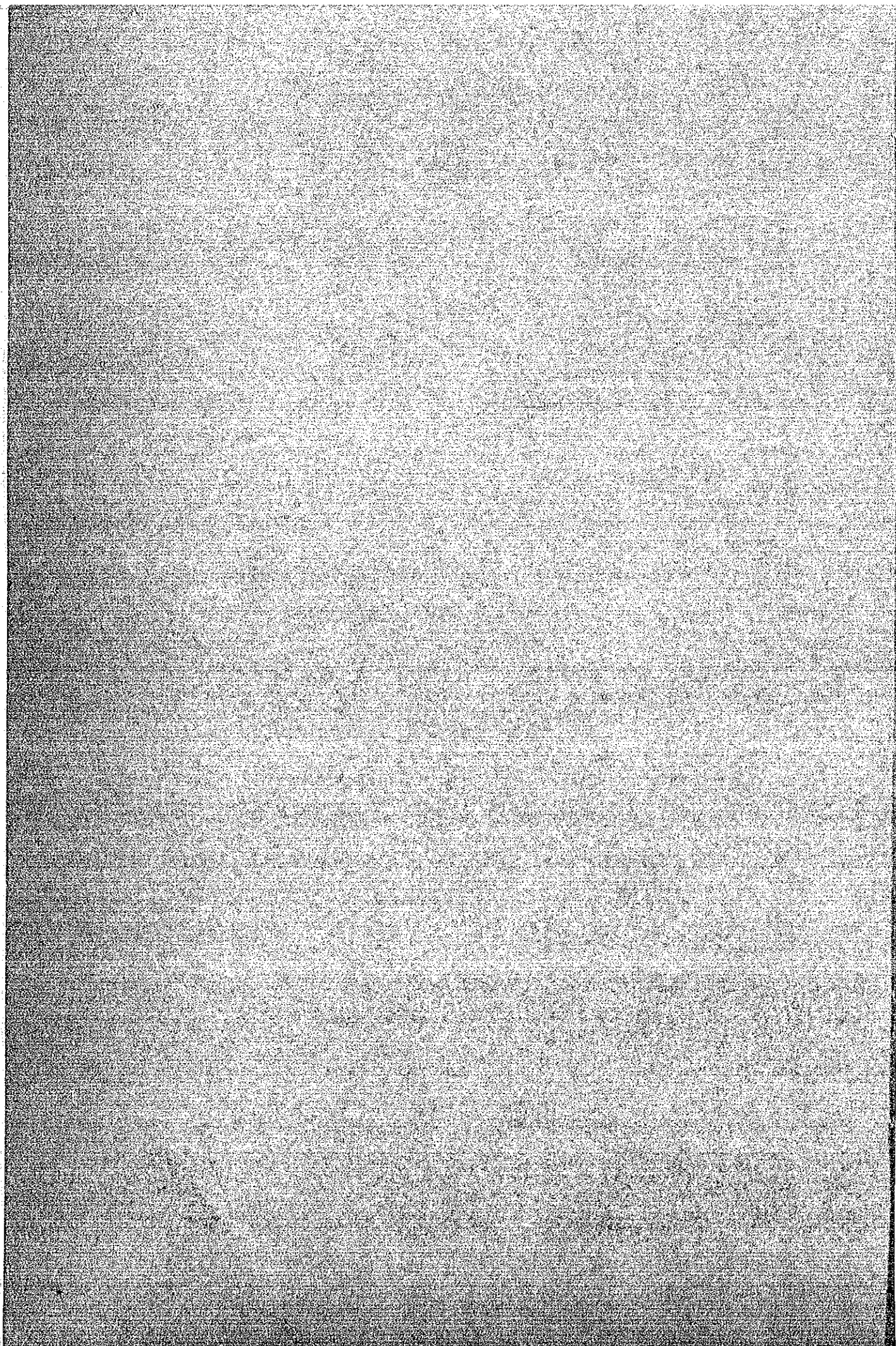
上水道施設帰国研修員巡回指導班

報 告 書

国際協力事業団
研修事業部

405
61.8
TAD

研 習
JR
80—4



JICA LIBRARY



1061847[C8]

54年度帰国研修員巡回指導

上水道施設帰国研修員巡回指導班

報 告 書

国際協力事業団
研修事業部

國際協力事業団	
入 月 55847523	405
登録No. 07046	618
	TAD

はじめに

この報告書は、我が国が実施してきた上水道施設コースに参加した帰国研修員に対するアフターケア業務の一環として、昭和55年3月15日から3月28日までの14日間、エジプト、トルコ及びイラクの3ヶ国に派遣した上水道施設巡回指導班の業務報告である。

本書が、帰国研修員の活動状況、彼らが抱えている諸問題、要望等について関係各位の層深いご理解をいただくための一助となり、今後の研修コース、また研修員受入事業の改善に資することができれば幸いである。

なお、本件の実施のためにご協力を賜った外務省、厚生省、日本水道協会及び現地において数々のご指導とご協力を賜った在外公館並びに関係機関の皆様に深甚の謝意を表したい。

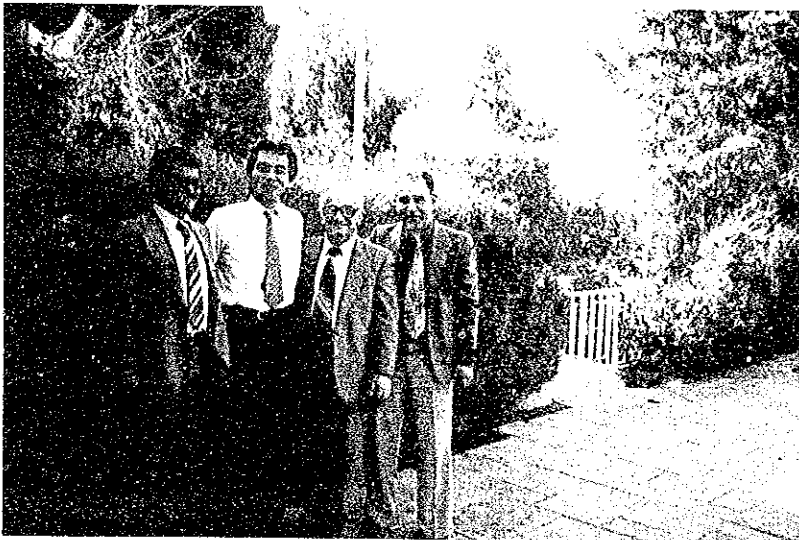
昭和55年4月

研修事業部長

イ ラ ク

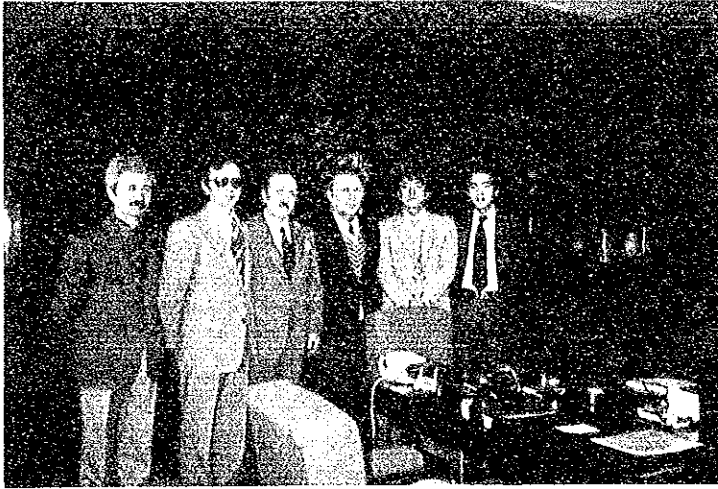


国営水道プロジェクト会社にて帰
国研修員と



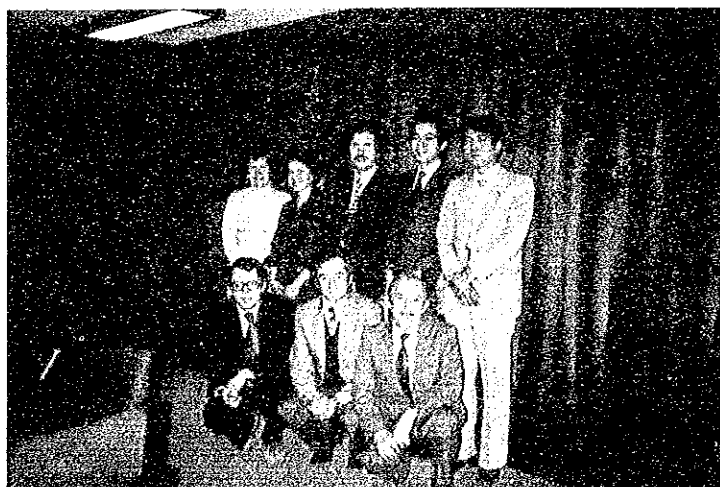
上下水道施設公団にて帰国研修員
と

トルコ



İller Bank 総裁室にて総裁(Mr. Aydin Evrankaya) と

YSE (道路、水、電気庁) にて副総裁 (Miss Pakize Aladag) と



DSİ (国営水道庁) にて帰国研修員と

エジプト



カイロ市水道局 カイロ北浄水場
にて帰国研修員と



カイロ市水道局 プロジェクト（帰
国研修員）部長室にて帰国研修員
と

目 次

1. 巡回指導班派遣の経緯・目的	1
2. 期間及び訪問国	1
3. メンバー	1
4. 日 程	2
5. 調査内容	3
6. 調査結果	3
7. 各国の印象	5
8. 今後の研修及びフォローアップ事業の運営上考慮すべき点	6

参考資料

表-I 昭和43年度～54年度実施上水道施設研修コース一覧	9
表-II 巡回国帰国研修員リスト	9
表-III 巡回国行政組織	11
表-IV 帰国研修員に配付したアンケート	13
表-V アンケートに対する回答結果	15

1. 巡回指導班派遣の経緯・目的

国際協力事業団は、厚生省、日本水道協会の協力を得て、開発途上国の水道技術者の人材育成に寄与するため昭和43年より水道技術者と対象とする上水道技術施設研修コースを毎年1回開催している。

本研修コースは、開始当初よりアジア、中近東および中南米地域を対象として、日本の水道技術の紹介を中心に3ヶ月の研修コースとして続けて来たが、最近では研修員よりの要望に応え、研修を行っており、研修員間の情報交換、人的交流討議を行う時間の比重も高めている。

本年度までに実施した研修は12回にわたり、受入れた研修員は、150名以上となっている。(表-I)

研修機関としては、昭和43年度より昭和45年度まで厚生省が実施しその後昭和46年度より現在まで社団法人日本水道協会が受託研修機関として一貫して研修を行っている。

本巡回指導班は、帰国研修員数から見て比較的中位の国々であるエジプト、トルコ、イラクの中近東3ヶ国を対象として、帰国研修員の所属する水道関連機関を訪問し、わが国における水道技術関係の最近の情報の提供、帰国研修員が当面する諸問題についての意見交換、研修コースに対する要望の調査、帰国研修員の動向調査を目的として派遣されたものである。

2. 期間・訪問国

昭和55年3月15日より昭和55年3月28日までの14日間

訪問国 エジプト、トルコ、イラク

3. メンバー

八木美雄 厚生省水道環境部水道整備課技術係長

富岡 透 (社)日本水道協会工務部技術課技師

4. 日程

日順	月 日	曜日	行 程	調 査 内 容
1	3月15日	土	17:00 成田発MS 869 便	(マニラ, バンコック, パーレーン, 経由) 飛行機延着のため2時間の遅れ。
2	3月16日	日	9:00 カイロ着	・ JICAカイロ事務所(広谷所長, 藤田氏)と日程打合せ。 ・ 日本大使館(木原一等書記官, 森本一等書記官)表敬。
3	3月17日	月	9:30 飲料水局局長室 11:00 カイロ水道庁会議室	・ 飲料水局長(Mr. Goubrial)等と, 会談。 ・ 帰国研修員(5名)と懇談。
4	3月18日	火	11:00 カイロ水道庁総裁室	・ カイロ水道庁総裁(Mr. Hussien Talanteid)表敬, 会談。 ・ 帰国研修員に対するセミナー開催。懇親会。
5	3月19日	水	9:00 カイロ北浄水場見学 11:00 北東カイロ浄水場見学 14:00	・ 帰国研修員との懇親会。
6	3月20日	木	6:40 カイロ発LO 436 便 9:40 イスタンブール着 11:00 イスタンブール総領事館 12:30 イスタンブール発VARANバス 21:00 アンカラ着	・ トルコ航空ストのため, アンカラへ行く方策を総領事館渡部領事と検討。陸路バスにてアンカラへ向う。
7	3月21日	金	9:30 I ller Bank 訪問 11:00 YSE訪問 13:00 DSI訪問 16:00 日本大使館表敬	・ I ller Bank 総裁(Mr. Aydin Evrankaya), 水道部長(Mr. Ahmet Takaoplu)下水道部長(Mr. Abdullah Ates)表敬会談。 ・ YSE副総裁(Miss Pakize Aladag), 水道部長(Mr. Cavit Aydos), 海外部長(Mr. Sami Ahmet), 表敬, 会談。 ・ DSI総裁(Mr. Timucin Tümer)表敬。帰国研修員4名と会談。セミナー開催 ・ 大使館(大使, 成宮書記官)表敬。
8	3月22日	土	9:00 アンカラ発 Bosfor バス 16:00 イスタンブール着	・ 資料整理および帰国研修員(Mr. Yavus)と懇談。
9	3月23日	日	15:55 イスタンブール発 IA 252 18:20 バクダッド着	・ 飛行機延着のため1時間遅れ。
10	3月24日	月	9:30 イラク計画省訪問 11:00 バクダッド市水道局訪問 13:00 水道施設見学	・ 技術協力担当官(Mr. Salah), (Mr. Talib)表敬。今後の日程打合せ。懇談。 ・ バクダッド市水道局長表敬。局職員と懇談。 ・ 7th April 浄水場見学。
11	3月25日	火	9:30 大使館表敬 11:00 国営水道プロジェクト建設会社訪問	・ 大使館(加賀美大使)表敬。 ・ プロジェクト会社社長表敬。帰国研修員と懇談。
12	3月26日	水	10:00 上下水道建設公団訪問 12:00 プロジェクト現場見学	・ 公団総裁表敬。上水道部長(Mr. Lefta 1976 研修員)と懇談。 ・ 大口径鉄筋コンクリート下水道管(3,000%)布設現場見学。下水道終末処理場見学。
13	3月27日	木	12:00 バクダッド発JL 476 便	・ カラチ, ボンベイ, バクダッド経由
14	3月28日	金	12:00 成田着	

5. 調査内容

巡回指導班の日程は短期間であったので、調査を能率的に行うため、JICAを通じて帰国研修員の連絡、視察希望先機関等への在外公館及びJICA事務所よりの連絡を事前に行った。

対象帰国研修員については、事前に送付した質問書(表-N)に基づいて懇談および意見の交換を行った。又、現在日本で問題となっている水道施設の地震濁水対策等についてのセミナーを行った。このセミナーにおいて、本巡回指導班は、水道の最新情報を提供するために下記の資料を各国関係機関に寄贈した。

また、各国の水道施設を視察し、それぞれの一般的状況技術水準の把握につとめた。

- (1) Earthquake-Proof Measures for A Water Supply System (Japan Water Works Association)
- (2) River Basin Management (Japan) (R.Yamamura , Ministry of Health & Welfare)
- (3) Desalination Plants Inventory (Water Reuse Promotion Center)
- (4) Japanese Desalination Technology with Profile of Firms (Water Reuse Promotion Center)
- (5) Treatment of Special Nature (Japan Water Works Association)
- (6) Large-Scale Earthquake Countermeasures Act (National Land Agency)
- (7) Water Resources Policy in Japan (National Land Agency)
- (8) Local Public Utility Law
- (9) Water Works Law

6. 調査結果

- (1) 各国の本事業に対する評価

各訪問国における帰国研修員は本研修に対し概して良い評価を与えている。

- (i) 今回訪問した中東諸国においては、従来欧米特にフランスの技術導入が主流であるが、研修によって日本の技術を勉強する機会を得たことは、現有施設(フランス等の技術導入によるもの)の再評価にもつながり、貴重であった。
- (ii) 研修内容が、水道技術全般にわたって最新最先端のレベルのものであり、水道技術全般を勉強する機会の少ない研修員にとって、貴重な経験となった。(註)
- (iii) 研修機関及び見学先における人的交流のあたたかさから研修に対して良い評価を与えている。

又、一般的な先進国概念としての欧米ではないアジアの国である日本に対する好意的評価が根底にあるようである。

(例) 水道技術を包括する学問として衛生工学があるが、訪問各国とも衛生工学講座を有する大学はほとんどなかった。(アレキサンドリア大学に衛生工学講座があるとのみ聞いた。)

(2) 帰国研修員の動向

各国とも水道建設の草創期にあり、国家的事業として推進されており、帰国研修員のほとんどすべてが、研修参加前と同じく中央又は地方の各機関において重要な地位を占めて活躍している。(例)

従って、研修に参加し、そこで得た知識、経験が、各国の水道行政・水道建設を推進する上での共通基盤として役立っている。

(例) 3ヶ国の帰国研修員22名中、水道関係の機関から離れた者はわずか2名であった。

(表-Ⅱ参照)

(3) 研修に対する要望

(i) 帰国研修員からリフレッシュコースへの要望が強かった。又、例えば計装管理、浄水管理などに焦点を絞った短期コース(プラクティスコース、スペシャライズドコース)への要望も強かった。

(ii) 開発途上国の実情に見合ったプラント規模に合わせた講義、開発途上国の抱えている問題に対するコンサルテーション、日本の技術協力、経済協力の概要説明などをセミナーに盛り込むよう要望があった。

(iii) 宿舍の不備、開催期間(5~8月)の変更、講習内容の伝達の不手際(講師の英会話能力によるもの)についても意見が出された。

(4) フォローアップ事業に対する要望

今回の巡回指導班の派遣については、各国とも好意的な対応を示した。

一方日本における水道技術の動向を知るため、英文の技術資料を定期的に送付する事業に対する要望が強く出された。

技術資料の定期的送付は、日本における研修成果をより発展させるために非常に有益であるので、今後開発途上国向けに、英文資料作成発送を組織的に進める必要性を痛感した。

(5) その他

各国において、技術情報の提供及び技術指導を行った。帰国研修員は、いずれも最新の技術を知っていたが、技術のエッセンスの理解に欠けている面が見られ、自らの手で、水道にとって基本的な技術的課題(ウォーターハンマー、赤水防止など)を解決できないケースがあった。

技術の高度化が進むにつれ、技術の本随がとかく忘れられがちになる傾向が一般的に見られるので、今後のセミナーの実施にあたっては、ベーシックかつプリミティブな技術の指導、伝達が重要であると思われる。

7. 各国の印象

(1) エジプト

カイロ水道庁 (General Organization for Greater Cairo Water Supply) 及び飲料水局 (General Organization for Potable Water) を訪問し、帰国研修員と懇談の機会を持つとともに、カイロ市水道局の北浄水場及び北東浄水場を見学した。

(i) カイロ市水道局

ナイル川沿いの運河より沈砂池は省略して、直接接合井へ原水を導水し、浄水を行っており、浄水後は直接ポンプにより配水し、又原水の一部は公園用水として浄水と同様に直接ポンプ配水されていた。

技術上の問題として、電力事情の悪さからポンプ急停止によるウォーターハンマーの発生防止対策、地下水を水源とする場合の赤水、黒水防止対策が上げられていたが、いずれも日本においてはごく初歩的な問題である。問題は容易に解決できる旨説明したところ、我々には技術も財政的余裕もない。先進国の技術援助がほしいとのことであった。

技術基盤のない国に、最新の技術を導入し、施設を建設することは容易であるが、水道のように建設後の管理のウェイトの高い施設にあつては、当該国の技術レベルに応じた施設建設、技術援助を行うべきであると思う。

(ii) 飲料水局

チェコスロバキアの援助により、カイロ市、アレキサンドリア市、スエズ運河地域を除いた地域の水道布設を推進している。

時間の制約により、詳細な情報は入手できなかった。

総合的な印象としては、公務員の待遇の低さ (民間ベースの 1/5) によるためか、水道関係機関の職員は一部を除いてあまり高い勤労意欲が見られず、従って水道技術の向上に対する熱意があまり感じられなかった。

(2) トルコ

トルコ航空のストライキの影響で、アンカラ市に 1 日間しか滞在できなかったため、Iller Bank (The Bank of Provinces), YSE (General Directorate for Road, Water & Electricity, Ministry of Rural Affairs), DSI (The State Hydraulic Works, Ministry of Settlement & Reconstruction) を訪れ意見を聴く機会し

がなく、現場を見る機会は得られなかった。

トルコは、数年来の経済政策の失敗からインフレーションが進み、国家財政が破綻をきたしているとかで、水道建設が遅延しているようであった。(註) ちなみにアンカラ市の水道は、需要に供給が追いつかず、ろ過池等施設能力の不足のため、水道水中に原水中の濁質が漏出し白濁していた。

技術スタッフは、いづれも熱意もあり又有能である印象を受けた。資金さえ確保されれば、事業執行は円滑に進むものと思われる。

(註) 1977年には1ドル=20リラであったものが、訪問時には1ドル=70リラであった。

(3) イ ラ ク

Ministry of Planningの技術協力担当官同行のもとに、バグダッド市水道局(Bagdad Water Supply Administration)の本部及び7th April浄水場、上下水道建設公団(State Organization for Water & Sewage, Ministry of Local Government)、上下水道プロジェクト建設会社(State Contracting Company for Water & Sewage Projects)を訪問し、その都度帰国研修員と会合を持った。

イラクは、社会主義政策を標榜し、手堅く社会基盤の充実に力を入れており、水道施設の整備にも力を注いでおり、又施設管理もしっかり行われていた。

8. 今後の研修及びフォローアップ事業の運営上考慮すべき点

本巡回指導班は、14日間に3ヶ国を巡回するというスケジュールであったため、時間的に限られ、更に航空会社(トルコ航空)のストに遭遇したため各国の水道の十分な実態把握はできなかったものの、帰国研修員との懇談等で、本研修コース及びフォローアップ事業に対する意見、要望等はかなり把握できた。それらの中で主要なものを取り上げ我国としての対応の可能性について述べてみる。

(1) 研修内容の高度化(コンピューター制御、自動制御等)に対する要望が出されたが、徒らに水道施設の高度化を図ることは、管理の高度化を意味し、かえって施設の運用を阻害することにもなりかねないので、manpowerの豊富な発展途上国に合った研修内容とする方がより賢明であると思われる。

又現在の研修内容は、主として大都市水道を対象としているが、開発途上国において一部都市の大都市化(特に首都において)は見られ研修対象と適合する面があるものの、農山村部では、依然として都市部との格差が大きい面もあるので、今後の研修にあたっては、農山村部等における小規模水道に合わせた内容も考慮すべきである。(註)

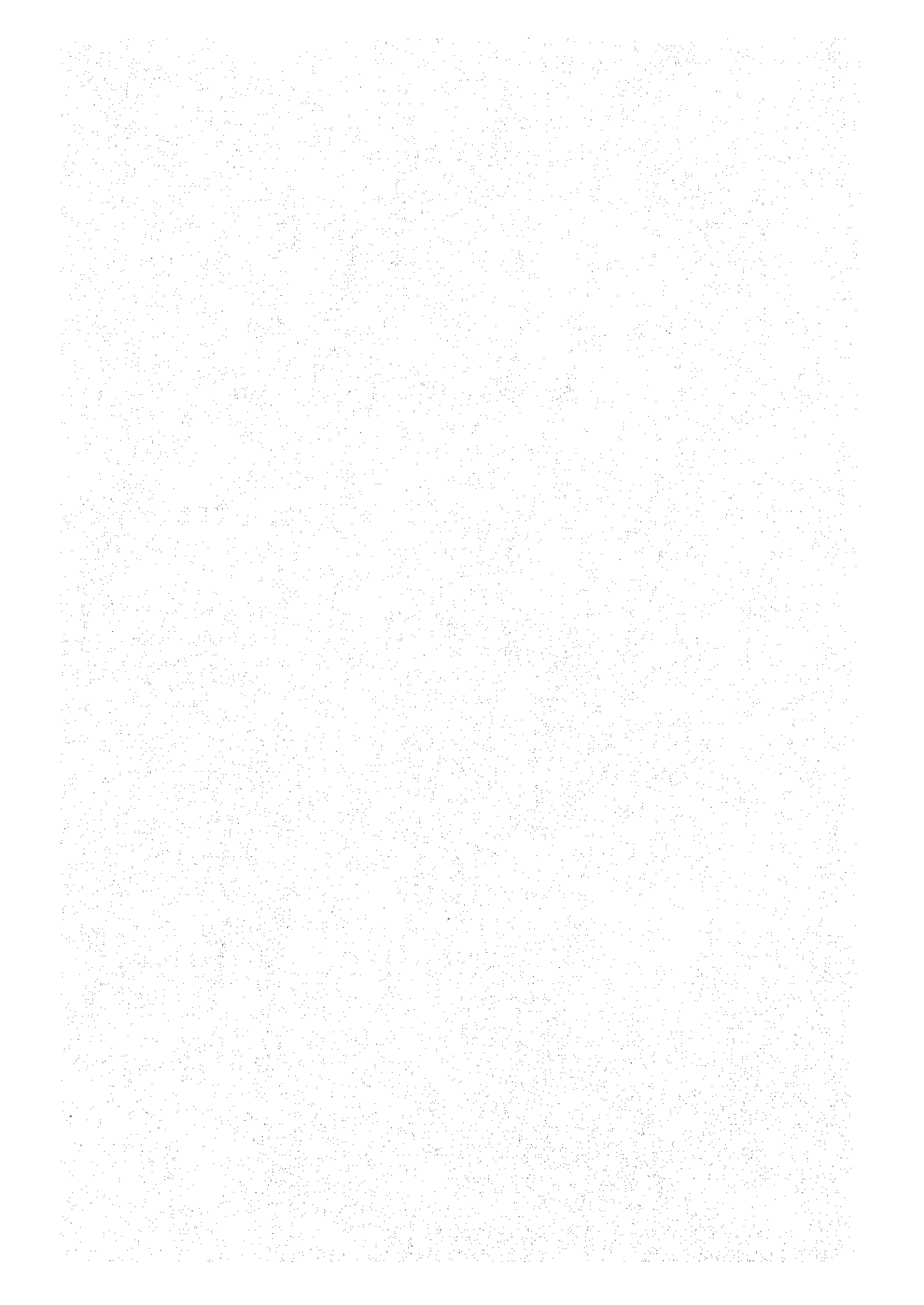
(註) 例えば、中近東などでは、豊富なエネルギーを利用した小規模海水淡水化プラント、

又、小規模水道になるほど管理の充実が期待できなくなるので清浄な水源である地下水の掘削技術などが上げられよう。

- (2) 専門的な実習（水質管理，施工管理等）に対する要望があったが，研修員全員出席のもとでの実習には，時間的にも人数的にも制約があるので，研修員の専門別（機械，電気，土木，水質等）に分けた短期間の実習も考慮する必要があるだろう。
- (3) 帰国研修員に対する短期再研修コース（いわゆる Refreshment Course）に対する要望が各国から出された。しかし，今回訪問した3ヶ国に限らず他国においても，わが国を訪れた研修員の数が限られており，又，来日経験のない技術者も多くいると思われる。その上，毎年，研修員をわが国へ派遣しているのであるから，up-to-date な情報はその研修員より伝えられてしかるべきである。従って，そのような内部努力をおこたり，いたずらに，Refreshment Course を設けるなどということは，まだその必要性が十分成熟していないと思われる。すなわち原則としては，やはり新規の研修員を主体とすべきであると思われる。
- (4) 3ヶ国とも帰国研修員に対して定期的に水道技術の情報を提供することを望んでいる。現在，こうしたフォローアップサービスは全く行っていない。従って今後の課題として「研修日より」形式のものを定期的に刊行，送付することが望ましいと思われる。また，よく研修員から英文の資料がなくて不自由したという話を聞いたが，わが国水道界においては，英文の技術紹介というものがほとんどなく，英文技術資料の充実も積極的に進めていく必要がある。
- (5) 国際協力の分野における「人」と「人」とのつながりは重要である。日本の水道界は，普及率の高さ（約90%）すなわち施設整備の大半が完了しているという状況からともすれば保守的になりがちな傾向があり，「外」への技術の伝達には消極的な面のあることは否定できないが，いずれの帰国研修員とも，日本の技術水準の高さから，日本からの技術援助を求めている。

こうした状況を鑑みるなら，海外から単に「人」を受け入れるだけでなく，逆に海外へ「人」を提供すること，すなわち我が国の技術を開発途上国の伝えるに十分な人的体制を充実していくことが，非常に重要な課題となってくる。

参 考 资 料



表一I 昭和43年度～54年度実施水道施設集団コース一覧

年 度	参加者	参加国	期 間
43	12	9	3ヶ月
44	不 明	不 明	3ヶ月
45	8	8	3ヶ月
46	13	9	3ヶ月
47	10	9	3ヶ月
48	14	13	3ヶ月
49	13	13	3ヶ月
50	13	11	3ヶ月
51	22	13	3ヶ月
52	19	11	3ヶ月
53	13	12	3ヶ月
54	18	17	3ヶ月

表一II 巡回国帰国研修員リスト ※今回の巡回指導で面会した研修員

EGYPT

NAME LIST

<u>NAME</u>	<u>PRESENT POST & ORGANIZATION</u>	<u>Atended Year</u>
* 1. Mr.Ahmad Hassan Khodeir	Chief Engineer, Project Dept., GOGCWS	'75
* 2. Mr.Mohamad Khaled Moustafa Abdel Wahed	General Director, Project Dept., GOGCWS	'75
3. Mr.Wadid Tewfick Helmy	Private Company	'75
4. Mr.Mohamed Abdel Latif	Technical Director Under-Secretary of State's Office, Ministry of Irrigation	'76
* 5. Mr.Mostafa Ahmed Mazhar	General Director, Mechanical and Electrical Projects, GOGCWS	'77
* 6. Mr.Youssef Abd El Raouf Mohamed El-gamal	Chief Engineer, Giza Water Purification Plant, GOGCWS	'78
* 7. Mr.Adel Mostafa El-Toweiry	Manager, Mechanical and Electrical Projects GOGCWS	'79
* 8. Mr.Khinder El-Sayed Idrees Mohammed	Chief Executive Engineer, General Organ- ization for Potable Water	'79

Remark: GOGCWS..... General Organization for Greater Cairo Water Supply

TURKEY

NAME LIST

<u>NAME</u>	<u>PRESENT POST & ORGANIZATION</u>	<u>Atended Year</u>
1. Mr.Rustu Kasap	Head of Water Works Construction Committee, TOPRAKSU(State Agency)	'74
* 2. Mr.Huseyin Yuksel Yavuz	Assistant Director, Planning Dept., General Directorate of Istanbul Water Works Administration	'76
* 3. Mr.Erdal Orbay	Head of Supervision Engineer and Parttime Instructor in Civil Engineering Dept., Middle East Technical University	'76
4. Mr.Mustafa Sukru Turan	Resigned	'77
* 5. Mr.Fevzi Izzet Atalay	Director of Project and Construction, 5th Regional Directorate, DSI	'78
* 6. Mrs.Oya Karabag	Chief Engineer, Treatment Plant Dept., DSI	'79

Remark: DSI..... General Directorate of State Hydraulic Works

IRAQ

NAME LIST

<u>NAME</u>	<u>PRESENT POSITION & ORGANIZATION</u>	<u>Atended Year</u>
* 1. Mr.Ihsan Salih Al-Tahhan	Engineer, Semi Private Contractor, for Water Project	'70
2. Mr.Abdel Salam Musalem Al-Mohmoud	Contractor	'71
3. Mr.Walid Mohammad Shallal	Resident Engineer, Establishment, Water and Sewage Project	'72
* 4. Mr.Mohammed Munir Adil Doughramaji	Senior Engineer, Design Sec., Establishment of Water & Sewage Project	'73
* 5. Mr.Muwaffaq Bakir Ahmad Sulaiman	Chief Engineer, North District, Water & Sewage Implementation, MIA.	'74
6. Mr.Abdul-Salam Salih Salman Al-Khaldi	Execution Engineer, Baghdad Water Supply Administration	'75
* 7. Mr.Lefta Amir Al-haddad	Head of Dept. of Water Project, State Contracting Co. for Water & Sewage Project Ministry of Housing & Reconstruction	'76
* 8. Mr.Atta Ghani Al-Abbas	Engineer, Sewage Sec., Establishment of Execution of Sewage Project	'79

表一Ⅲ 各国の水道行政組織

1. エジプト

エジプトにおける水道は、以下のように4地域に分割して整備されてきている。

- (1) カイロ水道庁 (General Organization for Greater Cairo Water Supply)
カイロ市, ギザ市及びカリオビア市の一部
- (2) アレキサンドリア水道庁 (Alexandria Water Authority)
アレキサンドリア市
- (3) スエズ運河水道庁 (Suez Canal Water Authority)
スエズ市, エスマリア市, サイド港
- (4) 飲料水局 (General Organization for Potable Water Supply)
(1)~(3)以外の地域

2. トルコ

トルコでは、給水人口に応じて次の機関が水道の整備を進めている。

- (1) Y S E (General Directorate for Road, Water & Electricity, Ministry of Rural Affairs)
3,000人以下の町村の水道建設
- (2) Iller Bank (The Bank of Provinces)
3,000~100,000人の市町村の水道建設
- (3) D S I (The State Hydraulics Works, Ministry of Settlement & Reconstruction)
100,000人以上の市(アンカラ, イスタンブール, イズミール市除く)の水道建設及び水源開発

3. イラク

国家開発計画 (National Development Programme) をもとに、計画省 (Ministry of Planning) の指導により水道が整備されてきている。

- (1) バクダッド市
バクダッド市水道局 (Bagdad Water Supply Administration) により、施設建設から維持管理まですべてが実施されている。

(2) バクダッド市以外の地域

上下水道建設公団 (State Organization for Water & Sewage , Ministry of Local Government) により計画 , 調査 , 設計が行われ , 上下水道プロジェクト建設会社 (State Contracting Company for Water & Sewage Projects) により施工されている。施設建設完了後は Local Government により管理・運転されることとなる。

表一Ⅳ 帰国研修員に配付したアンケート

QUESTIONNAIRE (PERSONAL)

Please reply the following questions. (Please write in block letter or typewrite.)

1. General question

(1) Course attended:

(2) Your name: _____
(family name) (others)

(3) Year of your attendance at the course:

(4) Home address:

(5) Present office and position

Office:

Position (Please write about your responsibility in detail):

(6) Address of your present office:

2. Question on the course you attended

(1) Could you frankly say whether the course(s) you attended was efficient to your work after returning home? If so, in what way?

(2) Do you have any proposal for the improvement of the course?

a) Duration of the course:

b) Lectures and practices:

c) Field trip:

d) Accomodation:

e) Other comments:

3. Question on the follow-up service

(1) What kind of follow-up service do you request?

(2) Others, if any.

4. Question on the technical cooperation and future projects of water supply for which you expect Japanese cooperation in near future

(a) If you have, please answer the following questions.

(i) Names of the projects

(ii) Locations and outlines of the projects

(iii) Names of the central operation bodies

- (iv) Approximate schedules and contents of the projects
 - * Feasibility study
 - * Detailed design
 - * Implementation
 - (b) How about technical aid from other countries except Japan?
 - (c) What kind of cooperation do you need from Japan?
(Financial, Technology transfer, Feasibility study etc.)
5. Do you have any request to the Japan International Cooperation Agency (JICA) or the Japan Water Works Association (JWWA) concerning the course?

Your signature: _____

表一V アンケートに対する回答結果

3ヶ国の帰国研修員中、今回の調査対象者22名に対し回収されたアンケートは10件（回収率45%であり、その内訳は以下のとおりである。

	リストアップした帰国研修員	回収率
エジプト	8	5
トルコ	6	5
イラク	8	0※
計	22	10

※ 計画省より一括送付の約束であったが未だに到着せず。

（研修員の要望事項）

1. エジプト

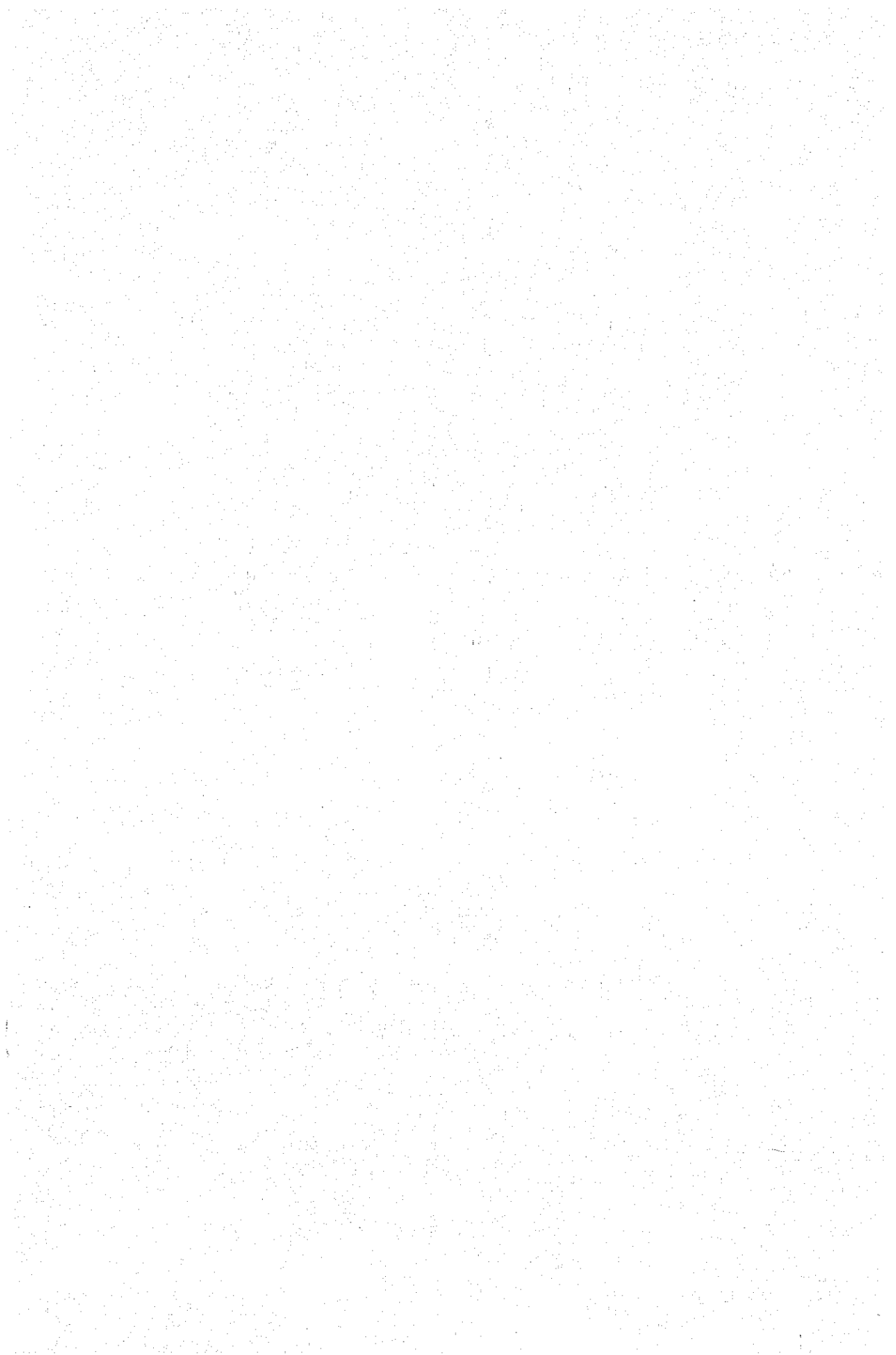
- ① 研修期間について延長（16週間）して欲しいというものと短縮（2ヶ月）して欲しいというものの両端があった。
- ② 古い水道施設の見学は取りやめ、最新技術（電子計算機制御、自動制御、水撃作用等）の研修を中心として欲しい。
- ③ 実際の水道計画にのっとって、研修を実施してほしい。
- ④ 帰国研修員のための4～5週間のRefreshment Course（再研修）を開催して欲しい。
- ⑤ 水道分野の最新技術等の定期刊行物を創刊し、配布して欲しい。

2. トルコ

- ① 研修期間は2ヶ月でも十分であるが、研修旅行の期間は長くして欲しい。
- ② 講師としては英語のしゃべれる人を選び、実習の時間をもっと多くして欲しい。
- ③ 研修終了後も最新のInformationを定期的に送付して欲しい。せめて、帰国後の研修の中で、新しく付け加えられた講義の資料だけでも送って欲しい。
- ④ 帰国研修員のRefreshment Courseを開催して欲しい。
- ⑤ 日本で研修を開催するだけでなく、各国へ日本の講師を派遣し現地で研修を実施して欲しい。

い。

- ⑥ 研修員の職種，レベルを同等にするよう配慮するとともに，中央の人ばかりでなく地方の人にも研修を受ける機会があるよう配慮して欲しい。



JICA